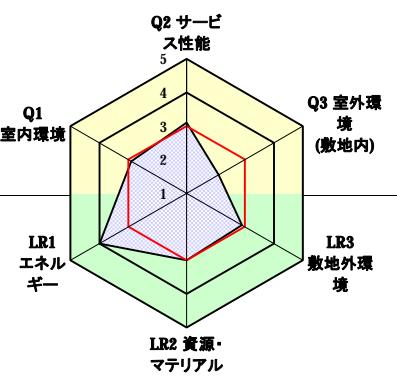
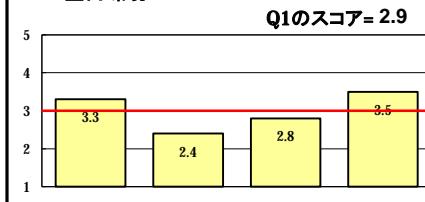
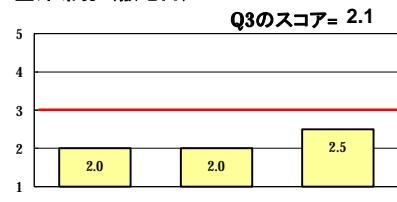
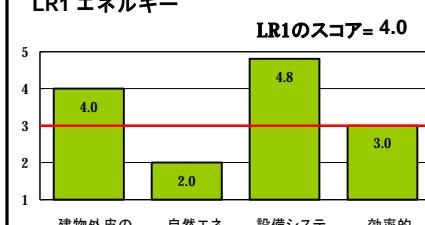
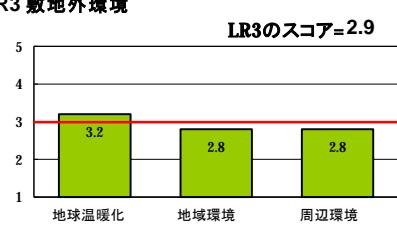


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)吹田市江坂町2丁目 新築工	階数	地上5F
建設地	大阪府吹田市江坂町	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	88人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2025年9月29日
敷地面積	1,385 m ²	作成者	UrbanoDesign 安松高志
建築面積	745 m ²	確認日	2025年9月29日
延床面積	3,321 m ²	確認者	UrbanoDesign 安松高志

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
BEE = 1.1 					
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★		30% ★★★★★ 60% ★★★★ 80% ★★★ 100% ★★ 100%超: ★		Q2 サービス性 Q3 室外環境(敷地内) Q1 室内環境 LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境	

2-4 中項目の評価(バーチャート)	
Q 環境品質	Q のスコア = 2.7
Q1 室内環境	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア = 2.9	Q3のスコア = 2.1
	
LR 環境負荷低減性	LR のスコア = 3.4
LR1 エネルギー	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 4.0	LR3のスコア = 2.9
	

3 設計上の配慮事項			
総合		その他	
断熱性能を向上させ、省エネ基準に適合している。		特になし。	
Q1 室内環境		Q3 室外環境 (敷地内)	
遮音性能が高い窓を、住戸部に採用している。		敷地の条件に応じた適切な緑地を計画している。	
LR1 エネルギー		LR3 敷地外環境	
断熱性能等級が等級4相当を確保している。		特になし。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府の重点評価(結果)

Osakafu-新築・既存 2024V1.3

【建物概要】 建物名称		(仮称)吹田市江坂町2丁目 新築工事						
建設地		大阪府吹田市江坂町						
用途／区分		集合住宅						
【評価結果】	CASBEE 総合評価				B+			
①	CO2削減				3			
②	みどり・ヒート アイランド対策				3			
③	断熱性能				4			
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分			5			
④	エネルギー消費性能				5			
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分			2			
	非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	評価対象外			評価対象外			
⑤	自然エネルギー直接利用							
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱		
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス		
	エネルギー消費量の報告					対象外		
【評価項目】								
項目	評価内容					スコア		
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.2		
② みどり・ヒートアイランド対策						3		
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出				2.0	3		
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0			
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環 2.2 温熱環境悪化の改善				3.0			
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制				4.0	4		
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化				4.8	5		
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用				2.0	—		
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	-		
その他								
先進的技術の導入			技術の名称		考慮事項			
特に配慮した事項								